

センター通信

知床森林生態系保全センター

今回は、知床世界自然遺産地域科学委員会の下に設置された会議の一つ「エゾシカ・ヒグマワーキンググループ」で主に取り組んでいる2つの計画について紹介します。

この会議は、委員（研究者などの専門家）、地元自治体、事務局で構成され、環境省、北海道及び北海道森林管理局、が事務局となっています。

本計画は、5年を1期として計画され、現在は第3期計画期間の1年目です。計画の目的は、エゾシカ個体群の適切な管理を通じてエゾシカの高密度状態によって起こる遺産地域の生態系への過度な影響を減らすことで、当センターでは、植生保護柵の管理や植生モニタリング調査、エゾシカの個体数調整を行っていきます。

・管理の方針

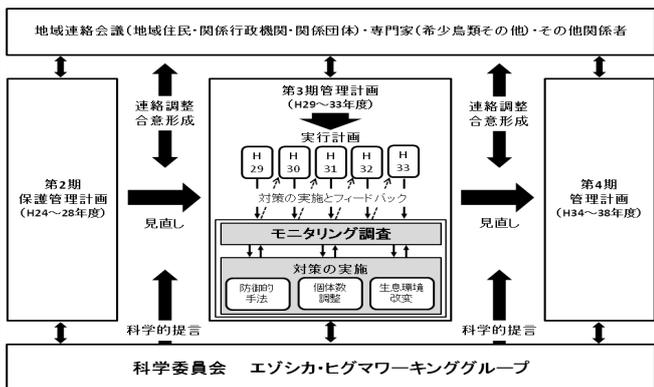
原則として自然の推移に委ねますが、希少植物種の消失のおそれがあるなどの場合には、捕獲等の管理措置を行います。

・実施方法

管理措置の結果を適切に評価した上で計画に反映させるために、「植生」と「エゾシカ生息密度」を評価項目に設定し、これに応じたモニタリングを実施し、評価・検証を行っています。

・課題

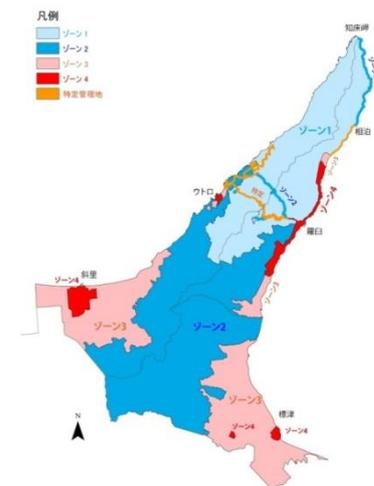
これまでの管理により、エゾシカの個体数は減少しましたが、植生の回復にはまだ時間がかかります。いかに効率よく低密度を維持していくかが今後の課題です。



第3期知床半島エゾシカ管理計画の計画実行プロセス (知床半島エゾシカ管理計画より)

本計画もエゾシカ同様に5年を1期として計画され、現在は第2期計画期間の1年目です。

計画の目的は、遺産地域及び隣接する地域における住民の生活と観光客の安全を守りつつ、ヒグマの生態及び個体群を将来にわたって維持することです。当センターでは、ヒグマ出没情報の収集と提供、エサとして重要なサケ科魚類やどんぐりの調査、国有林利用者への啓発活動を行っています。



ゾーニング図 (知床半島ヒグマ管理計画より)

「人間に求められる行動」を明示して、普及啓発を行います。また、対象地域を人間の利用状況により5つのゾーンに分け、ヒグマ出没時の対応等を整理していきます。例えば人間の利用が少ない

「ゾーン1」はヒグマの行動を優先しますが、市街地など人間の生活圏である「ゾーン4」は人間の安全を優先した対応を取ります。

・実施方法

計画に基づく対策を確実に実施するために、年度ごとに「アクションプラン」を定め、実施状況等を点検することとしています。

・課題

安易に近づかない等、ヒグマに対する適切な行動を、より多くの人に伝えて実施していくことが求められています。

・管理の方針

ヒグマと共存するためには、人間が適切な行動を取ることが重要です。「人間の問題行動と悪影響」及

今後も計画に基づいて、関係機関と協力しながら森林生態系の保全に励んで参ります。